

平成 25 年度 事業計画

平成 24 年度は、一般社団法人取得、法人化記念式典・祝賀会があり、日臨技も宮島会長を代表とする新執行部体制が船出し、おめでたい 1 年でありました。

県技師会執行部も一新し、事務局も厚生病院へ移管されて 1 年が経ちました。日臨技からの委託事業である公益事業、がん予防啓発キャンペーンも健康増進課や放射線技師会との共催で盛り上がり、STI/HIV 予防啓発キャンペーンも小瀬での VF 甲府の試合前の活動や、高校での特別授業が定着してまいりました。

平成 25 年度は、定款に『学術及び技術の研鑽・向上、福利厚生並びに会員同士の団結・親睦の充実を図るとともに、県民の健康増進及び保健医療の確保、公衆衛生の向上に寄与することを目的とする』と謳ってありますように、更なる学術向上の場の提供、会員同士の団結・親睦の場の提供を行いたいと考えています。また、新人教育をはじめとした、人材育成にも力を注いでまいります。

関東甲信地区技師会から、日臨技関東甲信支部へと移行してまいりますが、支部内においても従前以上の活発な学術活動を展開したいと考えています。

平成 25 年度の山梨県技師会は、以上のことを踏まえ、当会の目的を着実に推進すべく、下記の基本方針を軸に、公正で透明性の高い運営を目指します。

- 基本方針
- (1) 学術活動の推進
 - (2) 組織の強化・活性化
 - (3) 人材育成（認定取得支援を含む）
 - (4) 情報網の整理（災害対策ネットワーク構築を含む）
 - (5) 公益事業の推進と他関連団体との連携強化
 - (6) 県技師会主催事業の開催（実行委員会の設置）

1. 学術活動の推進

学術は、技師会活動の根幹を占めることから、学術部研究班活動を中心に、多くの会員が積極的に研修会に参加できるよう企画する。新たに、研究班の垣根を越え多くの会員が一堂に会し、総論・各論を学べる機会を提供したい。

また、関東甲信支部と連携をとりながら、更なる学術研修会の推進を図る。

精度保証認証については、認証取得施設の普及を図りたい。

2. 組織の強化・活性化

地区理事を中心とした地区活動の強化・親睦を図り、技師会未加入会員の技師会加入を図る。また、今夏の参院選に日臨技前副会長米坂知昭の立候補が決定してい

るので、技師連盟への加入推進を図り、日臨技からの組織内議員の当選を目指す。更に、OB会『銀の輪』の普及と加入推進を図る。

今後、更に会員の比率が増す女性会員も積極的な技師会活動への参入を推進する。また、上記学術活動の中にある、多くの会員が総論・各論を学んだ後、組織強化と親睦を目的とした意見交換会の機会も提供したい。

3. 人材育成（認定取得支援を含む）

昨年度に引き続き、新人教育として公益事業への参加と研修会を実施し、公益活動への理解と夜間・休日の検査ポイントの知識向上を図る。認定取得に対しては、認定機構・認定センター・専門学会と連携を図り、研究班活動と共同で取得支援を推進する。また、将来の技師会を担っていくような技師の発掘・育成、女性会員の育休後の教育支援、再就職に係る教育支援も希望を募り実施していきたい。

4. 情報網の整理（災害対策ネットワーク構築を含む）

東日本大震災での教訓から、昨年度の検査室改革セミナーの内容を基に、災害地域支援対策ネットワークを構築し、来るべく災害に対処できるよう構築していく。HPの個人情報の保護・セキュリティ強化に努め、広報部と協働し、HPの更なる充実と迅速かつ的確な情報提供を推進する。

5. 公益事業の推進と他関連団体の連携強化

日臨技委託公益事業である、「がん予防啓発キャンペーン」「STI/HIV 予防啓発キャンペーン」による県民への健康増進運動で関連団体と連携し充実を図る。特に、「がん」では放射線技師会と密に連携し、県民の健康増進の向上を推進する。関連団体とは、積極的に連携を図り、開かれた技師会を目指す。主に、例年同様、下記各種行事・事業への共催・参加・協力を促進していく。

- 1) 山梨県医師会精度管理調査事業
- 2) 山梨県健康増進事業への参加・協力
- 3) 日臨技及び関甲信支部との連携・協力
- 4) 山梨県臨床検査医学研究会の共催
- 5) 医療関連団体、学会との連携・協力
- 6) 公益事業の共催

6. 県技師会主催事業の開催（実行委員会の設置）

- 1) 第29回山梨県医学検査学会開催 担当；甲府C地区
社会保険山梨病院、国立病院機構甲府病院、湯村温泉病院、竜王共立診療所
- 2) 学術講習会 担当；峡南地区

- 3) リフレッシュ研修会 担当；郡内地区
- 4) 人材育成研修会（新人教育研修会）
- 5) 検査室改革セミナー
- 6) 山梨県臨床検査フォーラム（仮称）＜1日目：全体集会総論・R-CPC,
意見交換会、2日目：研究班単位・合同での各論＞